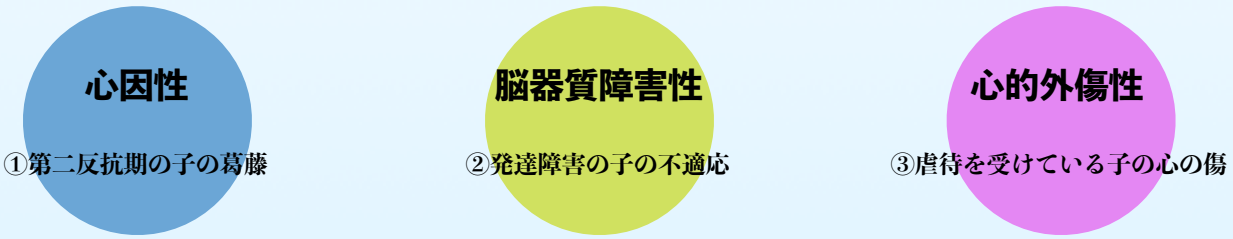
2025年　3連続講座（オンライン開催）

「子どもの『悩み』3タイプを学ぶ」

本セミナーは、**子どもの悩みを理解する**ための連続講座です。

悩みは、質的な違いによって３タイプに分けられます。「**心因性**」「**脳機能障害性**」「**心的外傷性**」です。その中でも、子どもに関わる現場で重要な理解である下の図の①②③を中心に、年間を通して学んでいきます。先んじて、その内容を少しだけ紹介します。



①第二反抗期の親子間葛藤とその解決：2025年3月2日(日)開講

たとえば、子が**激しい第二反抗期**だとします。非行・家庭内暴力・自傷行為・不登校などが起きているとすれば、その背景にあるのは親子間葛藤です。これは**互いに苦しい時間**が続きます。しかし、苦しさの原因は親子ともに気づいていません。なぜなら、**ある関係（状態）が固定されてしまっているので、その場から動けず視点を変えられないから**です。その最初、親の多くは子をどうにかしてほしいと児童精神科・児童相談所・スクールカウンセラー・教育センター、場合によっては警察などに助けを求めます。しかし、こうすると子の態度は硬化していく一方です。親子の問題なのに第三者を介入させたからでしょう。そういう反応を考慮すると、もしかしたら子は端から、これが親子間葛藤によるものだと知っているかのようです。子は第三者ではなく、親に気持ちをわかってほしいようです。

なぜ親側が子側の問題であると思ってしまうのかというと、親には長年にわたって培ってきた「人生観」があるからです。社会に出て、それを信じて守り、子に伝えてきました。そして、子も親を信じてそれを受け取ってきました。しかし、親の人生観にどこか無理があるか緊張の伴うものだと、子が先に「折れて」しまいます。そうして「こうなったのはあんたのせいだ！」と訴え始めます。懸命に生きてきた親にとっては、何を言われているのかわかりません。

これをわかるようになるために必要なのが、**親カウンセリング**です。

親が自分の「人生観」を子にどう伝え、子はどう受け取ってきたのか――。この2つがつながると、親の生き方に変化が生じます。これを子も感じ取ります。すると、やがて固定されてしまっていた関係が動き始めます。

この**第二反抗期の親子間葛藤とその解決**を学びます。そのポイントになるのは、いつも**親子が対立するきっかけ**を把握することです。これを講義と事例を介して解説していきます。

②発達障害の子の不適応とその対応：2025年6月8日(日)開講

思春期年齢にあるからと言って、これが反抗期であるとは限りません。ごく軽い発達障害が見落とされて「不適応」が起きているという全く別の問題のこともあります。

発達障害は正式には神経発達症と呼ばれ、そのカテゴリーに分類される知的発達症・注意欠如多動症・学習症・自閉スペクトラム症などの総称です。それらの程度が中等症ほどであれば、親や周囲が見落としてしまうことは、ほぼないでしょう。

しかし軽症の場合は見落としやすく、知能検査の結果にも反映されないことが多くあります。問題となるのは**認知機能にごく軽微な制限**がかかっていることによる**「対人コミュニケーション障害」**に起因するトラブルです。が、第二次性徴がある（正常な身体の成長がある）ので心も順当に発達していると思ってしまい、上述（①第二反抗期の子の葛藤）のような典型的な思春期問題であると思われてしまうことが、発達障害の子の不適応を見落としてしまう最たる要因です。

先にも述べたように、親は子に生き方を伝えます。それを子は受け取ります。

ところが、子に「発達障害＝認知機能の制限」があると、親の生き方を理解して受け取ることが難しいため、**本質的な意味での反抗期は起こらない**のです。ここが、親側の苦労する点でもあります。反抗期との違いを理解していくことが親側を支えていくために必要です。現場で必要な発達障害の理解と、その対応の基本である**環境調整**を学んでいきます。

③虐待を受けた子の心の傷とその回復：2025年9月7日(日)開講

虐待を受けた子は、**アタッチメント症（愛着障害）という深い傷**を心に負います。**自己主張が育たず、自己否定的かつ被害的で、底知れぬ生きづらさを抱えながら孤立して**生きています。その理由は、人生で最初の人間関係である親子関係でつまずいてしまったので、この問題が尾を引いて、あらゆる人との関わりに影響し続けているからです。精神的には消耗していて、それで引きこもりなどに至る場合もありますが、近しい理解としては**反復性うつ病（燃え尽き症候群）**です。子どものころから続く慢性的なうつ状態や不眠には、こうした事情が隠れていることもあります。

また、彼らにも反抗期はありませんが、それは発達障害の子とは異なる理由からです。

虐待をするような親の人生観は極端に歪んでいることが多く、それを子は素直に受け取ることができません。なので、彼らの多くは親から生き方を教わらず、自力で試行錯誤しながら生き延びています。こうした意味で、そもそも気持ちの受け取り手が不在なので

す。たとえ親に反抗しても拒絶されるか無視されるかなので、その反抗は成就せず、やがて尻すぼみになっていきます。やはりこの様子は、心理発達としては非定型的です。

子が思春期年齢にある場合、多くで「親子並行面接」が採用されますが、実はこの場合はあまり効果的ではありません。親側に**「共感性の欠如」「感情のコントロール不全」**という**精神科的な問題**を抱えている率が高いからで、残念ながら子の気持ちが親に届くことはありません。支援者は、まずこれを知る必要があります。

一部では、虐待による心の傷は一生涯にわたって抱えていかなければならないとされているようですが、そんなことはありません。子に対する**深いカウンセリングが有効**です。しかし、そのためには、非定型的な心理発達の様相とその親の精神科的問題も念頭に置かなければなりません。これらを学んでいきます。

子どもの悩みの質によって、選択すべきカウンセリング・ケースワークが異なってきます。親カウンセリング、子カウンセリング、環境調整の３つです。それぞれ現場では当たり前となっている介入手法ですが、第一選択に据えるべき場合と用いるべき割合などは、この3タイプによってかなりの違いがあります。

しかし実際の現場では、悩み3タイプで区別されているのではなく、カウンセラーなのかケースワーカーかなのかで、担当者の役割によって分業されているようです。**この役割の差を補うために「連携」がなされますが、実はこの弊害があることは、あまり知られていません**。この事実についても触れていきます。

行うべき対応には相応の理由があるのですが、現場では「不登校＝家庭訪問して子へのアプローチ」となっているように、どうやら起きている現象面に目を奪われていて、事例への質的な評価は等閑（なおざり）にされているようです。

前回（2024.12.22開催「子どもの『悩み』3タイプを学ぶ」オンラインセミナー[概要版]で）、質問事項の多かった実際における関わりについてを、ご要望に応じて今回から事例を交えて詳解していきます。それぞれの親子関係の質的な差・心理発達の違い・取るべき対応の違いなどを、連続で受講くださると包括的に理解できる内容になっています。

ご興味のある方は、是非ご参加ください。みなさまと学べる日を心待ちにしております。

（植原亮太）

開催日程

2025年3月2日(日)13:00~15:00

①第二反抗期の親子間葛藤とその解決

13:00～13:45　講義：第二反抗期に生じる精神的混乱
13:45～13:50　休憩
13:50～14:50　事例：自傷行為の背景にある親子間葛藤
14:50～15:00　質疑応答・終了

2025年6月8日(日)13:00~15:00

②発達障害の子の不適応とその対応

13:00～13:45　講義：「不適応」とは何か
13:45～13:50　休憩
13:50～14:50　事例：子の障害受容を深める親と環境調整
14:50～15:00　質疑応答・終了

2025年9月7日(日)13:00~15:00

③虐待を受けた子の心の傷とその回復

13:00～13:45　講義：アタッチメント症の理解と親側の精神科的問題
13:45～13:50　休憩
13:50～14:50　事例：
14:40～15:00　質疑応答・終了

講師　：植原亮太　汐見カウンセリングオフィス所長（公認心理師・精神保健福祉士）

現在は東京都公立学校スクールカウンセラーも務めている。著書に第18回・開高健ノンフィクション賞の最終候補作になった『ルポ　虐待サバイバー』（集英社新書）がある他に、プレジデントオンラインに多数の寄稿文がある。所沢市「自殺対策連絡会議」、青梅市立学校に、それぞれスーパーバイザーとして招かれている。

参加費　：通年参加￥15,000
（各回[¥5,000]ごとに、お好みで講座を選択して申し込むこともできます）
使用機器：Zoomアプリ
参加申し込みは、こちから
（スマホでQRコードを読み込むと、サイトにジャンプします）
（PCからは、https://www.shiomi-counseling.jp/連続講座）